

みやぎ生協

● 継続して「被災地訪問企画」に取り組んでいます

みやぎ生協では、被災地域の変化や復旧状況を自身の目で確かめることで、被災された方々への思いをさせ、今後の支援や防災について考える機会として被災地訪問企画に継続して取り組んでいます。2014年度は、エリア企画で13回437人、一般メンバーに呼びかけた生活文化部企画で3回121人が参加しました。（12/8現在）

復興工事が始まっている様子や、一方で被災直後からほとんど変わらず残る宅地跡なども視察し、参加者からは「報道されていないことも多く知ることができ、まさに百聞は一見にしか

ず」「3年経って気持ちが薄れてきていたが、語り部さんのお話で当時の蘇り、支援を忘れてはいけないと痛感した」などの声が寄せられました。

訪問後はそれぞれの委員会やこ〜ぷのつどいなどで、自らの言葉で被災地の現状を伝えています。今年は、気仙沼市へ多くのエリアが訪問し、市内の飲食店の方から「視察のみの訪問者が多い中、生協さんは食事や買い物などもしてくれて有り難い」との声が寄せられるなど、直接的な支援の一助にもなりました。

来年度も、復興工事などで変

山元、亘理、関上方面



11月の山元町。宅地跡が被災当時のまま残る。

気仙沼方面



唐桑の津波体験館で説明を聞く参加者

化していく現状を知り、継続した支援へつながるよう被災地訪問企画に取り組んでいきます。

（生活文化部 山田尚子）

● 食のみやぎ復興ネットワーク ～わたりのそばプロジェクト「復興亘理そば」～

震災後、亘理で始まったソバ栽培を応援する「わたりのそばプロジェクト」。生産者の努力、応援する地域の皆さんの思い、そして天候にも恵まれ、今年は昨年を大きく上回る16トンのソバが収穫されました。



「復興亘理そば」おひろめ試食会

このソバを原料に商品化した「復興亘理そば」は、みやぎ生協全店舗、エコーブ宮城全店舗、逢隈ふれあいセンター、JA全農みやぎ産直レストランのCOCORONで販売されました。

発売に先立ち、12月2日（火）みやぎ生協亘理店で「おひろめ試食会」を開催し、30人のメンバーが参加しました。これまでの活動をふり返り、その後、みんなでそばを茹でて試食しました。「風味があって美味しい」「コシがあって食感がいい」「利

用してみんなで元気になろう」等の声が出されるなど、大好評でした。

12月14日（日）には、河北新報朝刊に、広告を掲載しました。亘理の「亘」の字は、元旦の「旦」の文字につながります。

「旦」は地平線から登る太陽を意味します。震災被害から立ち上がり、新しい地域の特産品作りに取り組む地域の、熱い思いを表現しました。

（食のみやぎ復興ネットワーク 事務局 藤田孝）

大学生協みやぎインターカレッジコープ

● 「食のみやぎ復興ネットワーク」と大学生協の連携をめざして

大学生協メンバー4人が、9月3日（水）に、食のみやぎ復興ネットワーク事務局長の藤田孝様を訪問し、「食のみやぎ復興ネットワークの活動について」のお話を伺いました。同ネットワークの取り組みを学ぶ中で、大学生協として共に取り組める内容がたくさんあることを認識しました。

大学生協は11月16日（日）同ネットワークの企画「仙台はくさい収穫祭」にも参加しました。また、12月には仙台市内の大学生協で「亘理そば」を生協職員向けに取り扱い、126袋（252食）供給しました。1食



から100円を「未来の大学生応援募金」としました。

今後は大学生協として「食のみやぎネットワーク」で取り扱っている商品や食材を組合員向けに販売すること、さらに同ネットワークの企画に学生が参加してサポートする機会についても、検討していきたいと考えています。

**食のみやぎ復興ネットワーク**

予約販売受付中  
**わたりのそばプロジェクト**

亘理そば  
焼湯の土産に

《復興》亘理そば 2人前(麺110g×2) つゆ付  
事前予約特別価格500円(税込み) 賞味期限2週間

注文方法 : 11月28日(金)までに各生協本部お送り下さい  
お渡し日 : 12月25日~26日(金)(代金引き替え)  
お渡し場所: 各生協本部にて

《復興》亘理そば 予約注文書				
申込者名	受け取り者氏名	受取者携帯番号	注文数量	受取時期
1				
2				

お問い合わせ先  
各生協本部

「仙台はくさい収穫祭」での様子(左)  
「亘理のそば」販売案内チラシ(上)

(専務理事 青柳範明)

大学生協東北事業連合

● 大学生協東北ブロック「七ヶ浜学習ボランティア」

大学生協では、東北の各大学生協から学生が参加する七ヶ浜町での学習支援ボランティアにほぼ月1回のペースで継続的にとりくんでいます。

今年8月のボランティアでは今春まで福島大学の学長をつとめられていた入戸野修(にっこのおさむ)先生をゲストに迎え、子どもたちに科学マジックを披露いただき、さらにボランティア学生も一緒になって子どもた

ちと科学おもちゃづくりを行いました。子どもたちは先生が行う手品のまねをして、何とかタネを明かそうと夢中になっていました。また、ブーメランづくりにもとりくみ、学生と一緒に上手に戻ってくるブーメランづくりを競い合う場面もありました。単に勉強を教えたり、遊んだりするだけでなく、子どもたちが科学への興味を持つきっかけを提供するとともに、大

学の教職員が専門性を活かして学習支援ボランティアに関わる初めての企画となりました。

(大学生協東北ブロック  
事務局長 田中康治)



入戸野修先生と子どもたち